

前回の振り返りと 本日の検討内容

2024.2.13

第5回 都市交通調査の深度化に向けた検討委員会

前回（第4回検討会）でいただいた主なご意見①

資料内容

- ・ ツアー交通手段選択モデルに関して、潜在クラスモデルでの推定結果、汎化性能の検証結果を提示

主なご意見

- ・ 潜在クラスの効用関数とメンバーシップ関数に考慮する説明変数に関して、自動車保有等の個人属性、人口密度等の都市特性、交通サービス水準等があるが、説明変数の性質によって分けして整理できるとよい。
- ・ 効用関数のパラメータ推定結果では、クラス間で定数項の値が大きく異なっており、弾力性の違いを表現できていると思うので、交通手段選択に関しては、潜在クラスがよいのではないか。
- ・ 通勤系トリップと私事系トリップで都市類型のクラスが異なると複雑になってしまうため、潜在クラスでは共通のメンバーシップ関数とし、ツアー主要交通手段選択モデルにおいて通勤系トリップと私事系トリップで異なるパラメータを与えることも考えられるのではないか。

対応方針

- ・ 潜在クラスモデルの説明変数を精査し、解釈性を高めつつ、汎化性能を確保するように改善（第6回で提示予定）

前回（第4回検討会）でいただいた主なご意見②

資料内容

- ・ ツアー目的地選択モデルに関して、中心市街地のアクセシビリティ、大規模施設の表現を改善したモデルを提示
- ・ H27全国PTのデータを用いてモデルを補正し、山形都市圏での再現性を確認

主なご意見

- ・ 郊外型ショッピングセンターと駅周辺、商店街との取り合いを目的地選択上で再現することは政策的にも重要である。
- ・ 目的地選択は各都市固有に差が出ると考えられるので、都市ごとにローカライズが必要ではないか。パーソントリップ調査と比較検証していただけるとよい。
- ・ 大規模商業データに含まれている築年数のデータ等をパラメータに加えることで、店舗の魅力や品揃えが表現できるのではないか。
- ・ 空間相関や選択肢集合の設定の議論も必要ではないか。
- ・ 再現性の観点からは、一定程度施策の検討に活用できそうなシミュレータができてきているのではないか。施策検討の活用においては、施設配置等の施策に対する感度があることが重要であり、今後のケーススタディで確認をできるとよい。

対応方針

- ・ 目的地選択モデルの説明変数に関して精査、また都市によるモデルのパラメータの違いについても確認（本日資料2）
- ・ 山形都市圏を対象としたケーススタディで確認（本日資料4）

今年度の検討内容と本日の資料

I 全国PT調査データを活用したシミュレータの検討

1) 個人データ生成モデル

- ・勤務地の付与等の改善

第6回

2) アクティビティベースドモデルの推定

- ・ツアー目的地選択モデル **資料2**
 - ー大規模商業施設や駅前・中心市街地の表現
- ・ツアー交通手段選択モデル **第6回**
 - ー都市毎の特性を表現可能な汎化性のあるモデル
 - ー特に都市による公共交通利用の違い
- ・そのほかモデルの構築 **済**
 - ー立ち寄り、トリップ交通手段、活動継続時間

3) シミュレータの再現性の検証 **資料2**

- ・PT調査実施済みの地方都市圏でシミュレータを適用し、シミュレーション結果とPTデータを比較
- ・H27全国PTデータを用いて補正

II シミュレータの補正に関する検討

1) PTデータ、ビッグデータによる結果の補正 **資料3**

- ・滞留人口データ（携帯電話基地局）による補正
- ・小サンプルPTデータによる補正

2) シミュレータのパラメータ補正

第6回

- ・1)の結果をもとにシミュレータのパラメータを補正

III ケーススタディの実施 **資料4**

第6回

- ・立地適正化計画や地域公共交通計画での活用を見据えたケーススタディ



